

分科会役員会 資料集

- ◆資料① 分科会参加者の推移 P1
- ◆資料② 2022年度長野県教育研究集会アンケート(一般参加者) P2～9
- ◆資料③ 2022年度県教研分科会総括 P9～16

資料① 分科会参加者数の推移

分科会参加者数(日程中の最大数)

※19年度まで2日日程, 20年度は未開催, 21年度は半日日程, 22年度は1日オンライン開催

分科会名	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12
01 国語教育	14	14		19	23	19	21	26	24	28	23
02 外国語教育	9	12		21	22	17	15	19	14	14	21
03 社会科教育	14	10		15	20	20	16	22	21	22	24
04 算数・数学教育	11	14		18	20	21	19	30	26	30	34
05 理科教育	27	25		28	34	37	30	32	38	30	36
06 図工・美術教育				15	8	10	4	11	8	8	11
07 音楽教育	8	15		7	7	6	8	13	11	7	9
08 書写・書道教育				10	9	10	6	14	11	8	5
09 技術・職業教育	5	7		9	10	9	12	11	11	12	9
10 家庭科教育	23	46		18	20	20	20	20	27	23	25
11 保健体育教育	7	8		11	13	11	13	9	9	11	9
12 学校保健	28	38		33	36	36	41	29	33	31	39
13 総合学習・生活科	7	6									
14 学校づくり・教育課程 (21,22年度は、26分科会と合同開催)	12	17		18	10	11	16	15	13	15	12
15 生活指導	10	8		20	18	18	17	17	13	15	17
16 特別支援教育と障害児の教育	24	17		21	24	25	18	22	22	23	25
17 幼年期・低学年の教育と保育問題	12	16		16	11	15	21	13	17	21	15
18 青年期・定時制・通信制の教育	6	6		12	10	10	11	16	8	11	13
19 子ども・青年と進路	4	4		9	8	11	7	14	10	16	15
20 平和・人権と国際連帯の教育	9	11		17	17	24	16	23	27	8	18
21 教育条件整備	9	17		16	20	17	20	15	32	27	34
22 学校給食と食教育	20	17		26	21	18	17	21			
23 環境・公害と教育	6	5		16	14	11	8	12	13	10	13
24 現代文化・図書館教育	13	22		27	29	20	28	26	26	34	26
25 不登校	13	12		12	12	13	13	13	17	15	25
26 高校改革・入試制度(14と合同)				20	17	17	14	14	14	14	9
ジェンダー平等	21										
特設分科会	—	26		14	40	35			51	34	36
合計	312	354		448	473	461	411	457	496	467	503

- ・半日開催であったが、300名を超える参加があった。前年より減少した。
- ・オンライン方式にしたことにより、参加者が増加した分科会があった。
- ・分科会役員のみでの参加となった分科会がある。

資料②

2022年度長野県教育研究集会アンケート(一般参加者)

◆県教研全般について(p.16～p.18)

◆来年度以降の記念講演会講師や内容の希望について(p.18～p.19)

◆分科会について(p.19～p.24)

県教研全般について

- ・講演会で、字幕が出ていましたが、自分にとってはうるさく感じたので視聴者の方でカットできる方法を考えていただきたいです。講師の方が画面共有されているときは気になりませんでした。
- ・zoom に入りやすく、レジメも後日アップしていただけるとの事。当日、困ってもすぐに連絡できるシステムが構築されており、メカオンチな私にも優しい環境に驚いています。
- ・一堂に集まれないため教研の熱気を感じる事ができず残念ですが、しかしリモートは参加しやすく、移動なく助かります。
- ・講演会は時宜を得たテーマでとてもよかったです。
- ・リモートでの参加は、とても参加しやすかったです。
- ・WEB 参加本当にありがたいです。教研推進委員会の皆様お疲れ様です。
- ・開催できてよかったと思います
- ・実施に向けいろいろご尽力いただきありがとうございました。対面でできるようにな状況になることを期待します
- ・学びの機会を与えていただき、ありがとうございました。
- ・参加者がもっとももっと増えるといいなと思います。ある意味 Zoom 会は参加しやすいので。
- ・参加者が多いといいですね。
- ・リモートで参加しやすかったです。
- ・メールで丁寧に情報を配信してくださり、ありがたかったです。
- ・教科別と問題別双方に出られたらなと思います。
- ・完全オンラインでしたが色々な面で、勉強させてもらいました。
- ・土曜日に1日というのは、ちょっと大変かな…と思います。
- ・今回は午前中に予定があり、午後の分科会のみ参加させてもらいました。
- ・準備等の運営お疲れ様でした。ありがとうございました。
- ・オンラインでの運営、緻密に、円滑にやっていただけて感謝です。
- ・オンラインだと移動の時間がないので、全県から参加しやすい
- ・早々にオンラインと決まっていた、ハイブリッドの道もあっていいかと思っていましたが、結果的には良かったと思います。
- ・このような場を用意していただき、ありがとうございます。
- ・困難な中、良い集会を開催していただき感謝申し上げます。対面で開催できることを願うばかりです。
- ・オンラインだと、参加しやすくてありがたいです。
- ・オンライン参加ということで、とても参加しやすかったです。
- ・オンラインだと参加しやすくてありがたいです。
- ・コロナ禍で仕方ありませんが、やはり会って語り合うことができるといいですね。でも、この状況の中でもオンラインという形で自主研修の場を作っていただきありがたいです。たくさんの方に参加していただきたいです。
- ・ZOOMの開催でしたが、自宅から参加できたので移動時間がなく気軽に参加することができました。参集開催は気軽に話せるメリットなどありますが、ZOOM開催もよかったです。
- ・もっと幅広く、いろんな教科の実践も知りたかったです。
- ・来年こそはオンラインでなく対面でできることを願うばかりです。
- ・オンラインで参加しやすくなりましたが、もう少し参加者が多いと、もっと盛り上がるのではと思います。
- ・年々参加者が少なくなり残念です。オンラインで参加できるのは楽ですが偶然の交流の機会がなくなり仕方なくも残念です。
- ・オンライン参加しやすかったです。
- ・気軽に参加できるので、オンラインでも良い部分もある。
- ・事前メールに、各分科会の資料ページにすぐに行けるようにしていただけると有難いです。休日一日を使うため、今回のようにズームで参加できる時間に参加できるスタイルだと、家庭との両立もでき助かります。分科会の時間ももう少し短くてもいいです。
- ・ハイブリッドは、負担増だが、実現を望む。
- ・講演会、聴けず残念でした。部活動の新人戦と重なった方もいるかと思います。日程をどこに設定しも難しいのでしょね。

- ・参加者登録をしたのですが、その後お知らせメールは届きませんでした。こちらの入力がまずかったでしょうか。
- ・1日開催で、コンパクトではあるが参加しやすいと感じた。
- ・1日開催でよかった
- ・役員の先生方、運営面でご苦労が多々あったかと思います。第8波の入口でリモート開催は適切な判断であったと思われまふ。お疲れ様でした、有り難うございました。
- ・これだけの規模の教研を続けていらしたことに敬意を表します。
- ・広い長野県から皆が時間を気にせずに参加できることはありがたいと思います。準備される本部の方の負担がわずかでも減っていることを願います。ありがとうございました。
- ・課題提起がとても分かりやすく、勉強になりました。焦点を絞った報告も良かったです。
- ・オンラインなどスムーズにできました。ありがとうございました。
- ・今年度も開催できて良かったと思います。
- ・どのレポートも「子どもから出発する」「子どもに学校を、教育を合わせる」という考えがしっかり根付いていました。今、誰のための障害児教育か、これが問われていて、人材づくりのためという狙いが露骨に出ています。普通に考えれば「子どもから」なんですが、ICTや行動分析の研修ばかりしていると、手段が目的になってくるように思います。レポート発表される先生が「文ばかりの発表ですみません。視覚支援じゃなくてすみません」と言っておられました、個々の一番いい方法でやりましょう。ICT汚染に染まらないように。
- ・オンラインでしたが充実した内容でした。
- ・率直な感想ですが、共同研究者としてオンライン開催に慣れてきた一方で、やはり対面開催(直接目を見ながら議論できる。休憩時間や分科会後にも情報交流や議論ができる)の復活の期待があります。
- ・参加者が少なく残念でした。
開催までのエネルギー、直接ご担当の役員の方、教文事務局の皆様のお力が計り知れないと思いますが、開催が継続できていることは大きな励みとなり、明日からの希望につながると改めて感じました。お世話になりました。
- ・運営のICT化がかなり進んでいて、チラシから終わりまでよく「研究」されたなと思いました。事務局の皆さん、本当に準備からお疲れ様でした。
- ・参加者が少なくなっているようですが意義のあるものだと思っています。
- ・コロナ化にも関わらず関係者の皆様のご尽力に敬意を表します。
教育課程当日に県教研へのレポート推薦を受けたのですが、そのときに初めてレポートのめ切が教育課程の翌々日であることを知りました。短い日数の中で、県教研用に形式を変えるのが大変であったり、教育課程で学ばせていただいたことをレポートに反映することに限界があったりしました。支部の問題かもしれませんが、改善が必要だと思います。
- ・オンラインらしい開催で、良かったです。担当された方々、ありがとうございました。
- ・コロナ禍の中、柔軟な対応ありがとうございました。コロナの感染者数が増えてきている中のオンライン開催。良かったと思います。ただ、対面での会議開催ができるまでに感染症が落ち着くことを願うばかりです。
- ・昨年もお願ひしましたが、オンラインであれば早朝9時から始め、午前中に分科会の課題提起とレポート一本くらいはやりたい。午後だけではレポートを十分議論できません。あるいは午前の全体会を早めに終わりにして、午後の開始を30分でも早くできれば助かります。
- ・昨年もそうでしたが、どうしても中体連新人戦の大会と重なってしまいます。学ぶ好機会であることや、運営側の先生方のご苦労を考えると、前向きに参加をしたいと考えますが、役員の選定についても配慮していただけるとありがたいです。
- ・zoomだと移動時間が無くて時間が有効に使えます。しかし、先生たちと顔を合わせて話し合う場もほしいと思っています。ですが、丁寧に準備していただき、ありがとうございました。
- ・申し込みから、メール案内等、当日もスムーズに参加できました。オンライン開催についても往復の時間的負担なく参加でき良かったです。
- ・コロナ感染のこともあるが、対策をしっかりした上で、対面とオンラインとのハイブリット開催をお願いしたい。機材や準備が煩雑になると思われるが、検討をお願いしたい。
- ・自主研修の場としての教研集会であることをもっと強調し、教員はレポート作成を簡素化するなどして参加へのハードルを下げ、全分科会でなくていいが、保護者にも参加しやすい内容も含めるなどし、参加者を増やす努力やアイデアを考えていきたい。
- ・コロナ下での開催でオンラインではあったが講演会、分科会が行われたことが意味のあることだった。中でも講演会は学校教育以外の方の話が伺えて視野が広くなり毎回楽しみにしている。今年もタイムリーな話で勉強になった。
- ・オンラインは参加しやすく良いと思います。
それぞれ直接顔を見て話し合うことができないのは残念ですが、実践を学び、また協議したり情報交換したりできる貴重な機会に本当にありがたく思います。
- ・絶対に1日開催がいいと思う。オンラインも可能な範囲で活用してもらおうと、講師も事情のある参加者も参加しやすいと思う。分科会は、様々な立場の方を呼んでいただいてあり、良かったと思いました。
- ・Webでの県教研2年目でICTの操作にもかなり慣れてきたように思います。
コロナ感染拡大の第8波といわれている中でも、自宅でマスクを外して気軽に参加できるので、大変ありがたか

- ったです。
- ・オンラインは参加しやすい。
 - ・研修は大事。他の参加者の思いを聞けるのが良い。
 - ・対面ができる日が待ち遠しいです。
 - ・早く対面でできる日を願いつつ
 - ・どうしても先生方の研究会と捉えてしまい、保護者、一般の参加が少ないですね。教育は学校、家庭、地域の連携で行うものとしたら、もっと色々な人に参加してもらいたいと思います。今日の分科会もものすごく勉強になったし、こんな14・5人だけで共有するのはもったいないと感じました。もっと宣伝してください。
 - ・臨場感には欠けるものの、ITの利便性をうまく使った運営で良かったと思います。計画、準備、そして運営、大変お疲れ様でした。お陰様で良い学びの機会になりました。ありがとうございました。
 - ・オンライン開催ということで、ホームページのご準備等、ありがとうございました。ホームページはとても充実していました。今後、参集でできるようになった場合も、ホームページを併用していったらよいのではないかと思います。全ての分科会のレポートを見ることができるようなのがよいです。(併用となると、事務局の皆さんの負担が増えてしまうかもしれませんが…)
 - ・研修として、どんな場で、何を学び深めるかがこれからの教職員に問われている。自主的研修の場であるこの教研集会を発展させてほしい。
 - ・zoomでしたので、気軽に参加できました。
 - ・1日の日程で、中身の濃い企画をこなされていて、大変ご苦労が多いかと思います。できれば、一般分科会の議論の時間をもう少し保証していただけたらと思います。
 - ・Zoomの接続について丁寧な指示をいただき、ありがとうございました。
 - ・zoomでの開催でしたので、勉強したかったことが、子どもの預け先がない中、参加させていただくことができ、ありがたかったです。子どもができてから、参集での研修に参加したくても、難しかったので、こうしてオンラインで勉強できるのはとてもありがたく感じます。子どもを自宅で見ながら、参加させていただいたため、途中で失礼してしまい申し訳なかったです。
 - ・このような研修会は、大変有意義です。
 - ・オールリモートでマスクをしていない顔を見ながらグループ討議などができたので、参加者の表情がみれてとてもよかったです。

分科会について

1. 国語教育

- ・ICTの効果的な使い方について多くのアイデアを得ました。
- ・ICTや評価の問題といった重要課題についてレポートをお聞きすることができ、大変勉強になりました。
- ・久しぶりの参加でしたが、これまでとは一変してICTやルーブリックについて考えることができ、とても刺激になりました。ホストの方の通信環境が悪く、途中もったいない時間が過ぎてしまったので、事前にチェックできるといいなと思いました。
- ・普段、私が困っていることを研究して発表してくれている先生方がいらっしゃいました。いろいろ困り感が解けて勉強になりました。
- ・オンライン開催ということもあり、せっかくご発表いただいたのに音声聞き取りづらい部分もありましたが、先生方の貴重な実践をお聞きでき、参考になりました。
- ・想像以上に有意義な会となりました。オンラインではありましたが、パソコン越しに先生方の温かさを感じながら参加させていただきました。
- ・レポート数は少なかったのですが、観点別評価やルーブリックなどについて、小中の先生と本音で語ることができ、よかったです。かなりご苦労されているのだということがわかりました。校種をこえた実践交流、県教研ならではの機会でした。
- ・レポートが多くなり、大変充実した分科会になりました。大きく分けると、ICTを活用した授業づくりと、観点別評価になると思います。お一人お一人の先生方は大変熱心に実践に取り組んでいらっしゃることは十分伝わってきました。心から敬意を表したいと存じます。その一方で新学習指導要領が学校現場で実践され、そのレポートがいよいよ上がってきたという印象(指導主事の指導が行き届いている)を受けました。それは先生方が現場でご苦労され、試行錯誤していらっしゃるからだとすることも十分感じます。チャレンジ課題なので今後教研活動を通して検証していくことが大事なのだと改めて感じました。資質能力ベースにとらわれるのではなく、国語教育の本質は何なのかをしっかりと見据えて行くことが求められると思いました。評価のための授業ではなく、言語能力を如何に高められるかが肝要で、ルーブリック評価は基準を明確にするかもしれませんが、結局相対評価にしかならないことを確認することができました。来年度実践を持ち合って研究できることを楽しみにしております。

2. 外国語教育

- ・周りの先生方の実践がのレベルが高く、とても勉強になりました。
- ・久しぶりの参加でしたが、小中高大の英語教育の今を立体的に感じることで、とても有意義な時間でした。

た。「英語を嫌いにさせない」を共通の基盤として、さらに連携を深めていけたらと感じました。ありがとうございました。

3. 社会科教育

- ・幅広い分野についてそれぞれの先生のお考えや実践を聞くことができ、貴重な経験になりました。自分の実践につながられるアドバイスもいただけ参加してよかったです。
- ・専門性の高い話しを多く聞くことができた。自分の勉強不足で内容によっては思慮を深めることはできなかったが、知るきっかけをいただき、勉強になった。
- ・現場の先生方の切実な悩みを少しでも共有し、わずかでもお役に立てればと思って臨みました。生徒や学校の個性や特徴を無視しての政府による新たな教育の中央集権化が進行していることに改めて愕然としつつも、それに抗って(時には従うことを余儀なくされつつ)生徒といっしょに主体的な学びをつくろうとされている姿にエールを送ります。教研に参加される先生方が増えればもっといいですね。

4. 算数・数学教育

- ・学校現場での授業の報告から、子ども一人一人の数学的理解を深めたり、生徒同士が討論を深めている様子を知ることができてとても有意義でした。それと同時に、文科省がすすめているスパイラル学習のおかしさもよくわかりました。
- ・本日、模試があり、その監督のため、分科会の途中からの参加となりました。義務の先生方の発表を興味深く聴かせていただきました。コロナ禍以降、高校の研究会活動が滞り(私もその一人ですが)、高校からの発表がなかったのは残念でした。役員の方、お世話になりました。
- ・さすが長野県の教育の底力を感じさせる分科会でした。小学校と中学校が合同で議論することにより、最近あまり議論に上らない「一貫カリキュラム」とか「自主編成」を地域や学校で作ることの意義や意味を考えることができました。これは小中一貫校や教科担任制のもんだいでこれから再浮上する議論ではないかという予感があります。
- ・また、豊かな教材あってこそそのリテラシーやコンピテンシーだということが実証された分科会だったと思います。この点をもっと自覚的に意図的に実践を創る現代的必要性も感じました。
- ・とても勉強になりました。ありがとうございました。

5. 理科教育

- ・公害と環境教育にも顔を出した
- ・実践発表を多く見せていただいた。タブレットは使えるものは使うというスタンスで良いと思う。運営お疲れ様でした。分科会の行き来をさせていただきました。
- ・現物に触れないのが残念
- ・もっぱらものから学ぶ という理科教育研究会の伝統は今年も健在でした。20名を超す参加があり、元気をもらえました。コロナ禍ですっかり定着したタブレット等の IT が理科教育にも新風を吹き込んでいますが、その功罪をしっかり見極めていくことも、今後の課題となりそうです。

7. 音楽教育

- ・少人数でした。でも、音楽のために何が大切なのか、確認しあえたことが良かったです。みんな思いは同じで、心強く感じました。
- ・音楽の良さを丸ごと感じて思いっきり楽しめるそんな音楽の授業を目指しているみなさんの実践やお話が聞けました。同時に鑑賞教材で評価の観点を決めると、それに縛られてしまうこともあると感じました。自由に感性をのばす授業になればと思います。
- ・少人数でしたが、組合らしい討議が出来たように思います。
- ・有意義なお話をたくさんお聞きすることができて、楽しかったです。また、懐かしい方々とお会いできたことがうれしかったと同時に、再任用のお立場の方々が今も役員などをされていて、本当に頭が下がる思いです。ありがとうございました。
- ・レポートが1本と少なかったが、コロナ禍で直面している様々な授業の困難さ等を、校種間で交流することができ有意義な時間となった。

9. 技術・職業教育

- ・技術・職業教育の意義が改めて明確になった。中学校技術科の時間数を増やすことの大切さが改めて実感された。
- ・参加者は少なかったですが、多くの意見交換ができました。ありがとうございました。

10. 家庭科教育

- ・オンラインだと参加しやすい面が多く、助かりました。
- ・よい学びになりました。疑問点や課題を明確にすることができました
- ・高校の様子が知れてよかったです。繋がりを大切にしていきたいと思いました。実践に学ばせていただきます。ありがとうございました。

- ・全県の様子がわかり参考になりました。
- ・現在困っていること、観点別評価やコロナ禍の調理実習についてなどのレポートにあったので参加させていただきました。参考になりました。
- ・最後しか出られませんでした。が、中学からのレポートも含め、新鮮な教材と出会うことができました。変わらないものと同時に進化していかなければいけないものもあり、高い意識が大事だと思いました。
- ・レポートが多く、充実していて、多くのことを学ぶことができました。
- ・有意義だった。ひとりで奮闘している毎日では、zoomでも話ができる、聞くことができるのは力になる。それにしても中学のICT関係があまりにも進んでいて、どうして高校とこんなに差があるのか愕然とした。
- ・今課題として抱えていることに関するレポートが多く出され、考えさせられると共にヒントをもらえました。横沢先生からの激励の言葉に元気をもらえました。一人で偏った考え方をしないために情報交換、実践交流は大事ですね。
- ・オンラインであっても多くの方の現場での様子や研究内容、また共通の課題を直接対話しながら見いだせる大変良い機会となった。
- ・参加者が、19名程度で残念でした。レポートの内容は、様々であったが実り多い研修になりました。担当の小林先生はじめ、日下先生等役員の皆様大変お疲れさまでした。”
- ・他校の先生方の実践をお聞きし、もう少し、授業を工夫してみようと思いました。
- ・やはり、交流することは大事ですね。投資のこと、観点別評価のこと、いずれもどうしていったらよいのか悩んでいたことでしたので、いろいろな情報を得ることができありがたく思っております。もう少し、先生方と交流する(世間話もしたいです)時間があるとよいかと思いました。半日ではなかなか時間的に厳しいですが。
- ・毎日研究を発表し、共有し、意見交換の場として、とても有意義な会でした。役員の方々に感謝します。もう少し参加者が多いとよいと感じた。

11. 保健体育教育

- ・それぞれの先生方が自分にはない視点で教材の工夫をされていたので、私も試してみたいと感じた。
- ・岩田先生、平田先生からのご指導をこの場でお聞きできたことが大変ありがたかったです。
- ・意見を交換する時間が短かったのが残念でした。レポートについては、校種は違えど参考になる部分がいくつもあったので、今後の授業に活かしていきたいと思います。
- ・毎回現場の生の声が聞けて参考になり、しかも元気に頑張っている様子の私も元気をもらっています。現場の実践の交流が研究のいのちです。
- ・久しぶりに高校からの参加があつてよかったです。欠席レポーターが2人もいました。参加して欲しいです。後継ぎ役員が課題です。ICT問題が議論できました。他の研究会では議論できません。県教研から発信していきたい。
- ・小・中・高・大の教員が同じテーマを通して学ぶことのできる貴重な機会でした。

12. 学校保健

- ・レポート発表は3本とも勉強になりました。
- ・三つの発表それぞれ素晴らしかったです。たいへん勉強になりました。今後の実践に活かさせていただきます。
- ・他の学校の実践を聞くことができよかったです。参考にさせていただきます。
- ・レポート3本充実していました。ありがとうございました。
- ・大変すばらしい実践事例をご紹介いただき、大変勉強になりました。高校の先生方など、普段交流機会のない先生方のお話も聞くことができ、学ぶことばかりでした。すぐにでも本校の子どもたちにつなげていきたいと感じました。グループ討議では、経験の少なさから発言することが申し訳なく感じ苦手に思っていました。情報交換できてよかったです。
- ・3本のレポートがどれも素晴らしく、これからの実践に役立つ貴重なものでした。
- ・貴重な意見交換ができ参考になりました。
- ・コロナ禍でも目の前の子ども達の姿から、どうしても伝えたい願い、思いを、形にして一歩踏み込み、実践をされたレポートで、大変素晴らしくとても参考になりました。
- ・充実したレポートを集めて提供していただき、とても良い分科会になったと感じました。
- ・発表、グループ討議、全体での共有の時間も丁度良かったと感じました。レポーターの先生方の日々の取り組み、役員の先生方が様々なところで丁寧な準備をしてくださったおかげだと思います。またぜひ組合の運動につなげていただけたらと思います。ありがとうございました。”
- ・普段は高校の仲間との交流が多い中、義務の先生との交流楽しかったです。情報交換をとおして視野を広げる機会になりました。
- ・コロナ禍でより一層学校に求められる健康課題や対応が増え、活動も制限される中でもかかわっている児童生徒の実態に合った支援・指導方法を模索し、小中高の先生との話し合いの中で系統的な支援が必要であると感じました。

13. 総合学習・生活科

14. 学校づくり・教育課程／26. 高校改革・入試制度合同

- 都合で途中からの参加となり、申し訳ありません。できればもう少し分科会の時間があれば、いろいろなことがお聞き出来たり、深い議論ができたかと思えます。高教組林さんのレポートはわかりやすく、とても勉強になります。いつも質の高いレポートを用意していただきありがとうございます。
- 職務との関係で部分的な傘下にとどまってしまうので、正確なところは言えませんが、報告者のメンバーも階層も広がったために、多面的な議論ができたのではないかと、思います。

15. 生活指導(自立と自治の指導)

- レポートが多数出てよかった。充実した内容の分科会になった。中込中の文化祭実践のレポートでは、スローガンに「一人ひとりの思いを反映した学校へ」と生徒会行事に「学校」の文字が入っていることのごさを感じた。
- 平嶋先生のレポートにも「自立に向けて必要なビジョンを描いていく」とあり、小学校での体験を個々に語れる、「語る」→「共有する」そして課題を皆でクリアしていく姿がいいなあと思いました。👏 中村先生の「祭り」ってワクワクドキドキするものという言葉に、拍手喝采でした。それをやり切った後、切り替えて受験へ向かう、それが青春しててとっても良いと思いました。中学校のレポートを聞きながら、小学校の低学年から「自治」の力を段階的につけていくことの大切さを実感しました。それが無いから、「賞」(他者評価)が無いと自分を評価できない、テストの点や結果でしか自己評価できない、自分の価値感のものさしが自分で持てない、自分の不満の背景がわからない生徒を育ててしまったのだと思いました。その後の小学校の実践は、ぜひ、多くの若い先生方に聞いてほしい実践だと思いました。

16. 特別支援教育と障害児の教育

- 「学校を子どもに合わせる」ことこそが特別支援であることをあらためて感じました。障害を持つ子のことを何も考えず押し進められているGIGABYTEスクール。IT依存症から子供たちを守るためにも、デジタルシチズンシップを広めなければいけないと考えます。

17. 幼年期・低学年の教育と保育問題

- 学校現場でも支援員さんがいないと児童の把握や対応に苦しむ時があります。園の人手不足や低賃金など課題をお聞きして、ともに改善の声を上げていきたいです。
- 子どもたちの生活経験の不足は、理科の授業でも感じます。体験が少なく、知らないことが増え、教科書の事例とのギャップも感じます。役員さん、ご苦勞様でした。ありがとうございました。
- 久しぶりに参加させていただきありがたかったです。
- もっと学校の先生方と連携して子どもたちの発達保障に取り組みたいと思うのですが、日頃のやり取りだけでは先生方に信頼していただくことは難しく感じています。
- 県教研に参加していらっしゃるような先生方とつながりが持てたら嬉しいです。県教研に限らずどこかで交流の機会が持てたらありがたいなと思いました。今後ともぜひよろしくお願ひいたします。
- 司会の先生に発言の機会を作っていただきましたのに、お心遣いを無駄にしまして申し訳なかったです。課題に思うことがたくさんありすぎて何に絞ってお話しようか迷ってしまいました。参加される皆さんからも様々な状況を教えていただき、更にごどこに論点を絞ったらよいか迷いました。「情報提供しあう場」の側面と「お互いの抱える課題に様々な立場から助言しあう場」としての役割があったかと思うのですが、そういった交流をするには課題が多岐に渡っていたり、時間が短かったように思いました。とはいえ、皆さん忙しい中にああして顔を合わせる機会を作っていただけのことが何よりもありがたかったです。また、十数年前(二十年前?)参加させていただきちょっと敷居が高く感じたのですが、今回お声をかけていただき、歓迎していただけて嬉しかったです。ありがとうございました。

18. 青年期・定時制・通信制の教育

- 役員だけで一般参加者のいない分科会。広がりが無い。
- 実践報告が刺激的でした。学校は違っていても、生徒一人一人を視野に置き、その成長を見守り、良いところを伸ばすことは重要です。
- 地域に通える定時制や特別支援学校が必要。定時制の統廃合により進学できない生徒が出来る。仮に進学してもバス代など経済的負担と通学時間などによる負担が大きくなる。
- 子どもたちに寄り添った学習を組織することの大切さを学んだ。

19. 子ども・青年と進路

- 参加者は6名でしたがお互いに中身のある討論ができました
- 小学校や高校の先生方の発表や話し合いを通して、自分が大切にしてきた「目の前の生徒の姿から考えること」が大事であることに自信をもつことができました。また、中学校の勤務だけでは見えなかった高校の実情や進路指導など、教師としての視点を広げていただき、ありがたかったです。

20. 平和・人権と国際連帯の教育

- 今、とても重要になっている問題が扱われたと思います。ウクライナ問題、そして新型コロナ、ジェンダー、

LGBTQ 等々、平和、戦争、人権ということ、子どもから大人までが皆身近に感じ、考えているはず。そう
いう中で、参加者が少なかったのは残念ですが、中身の濃いレポートや皆さんのお話でした。ネットにあふれる
真偽の疑わしい情報や、特定の考えに偏った動画等に接することの多い子どもたちに、正しい情報を得て自分
の頭で考えることができるようになるために、学校現場での実践を日常的に積み重ねていく必要を感じます。あ
りがとうございました。

- ・子どもたちが憲法や平和について、感じたり、考えたりする活動が、そのまま主権者教育となることが印象深く、
すばらしい実践報告であった。
- ・修学旅行の訪問先が平和教育の題材となり得ることを知らない教員がいたという事例の紹介があり驚いた。こ
の分科会で学ぶことをお勧めしたい。
- ・分科会参加者が少なかったことについて、ネット検索でわかる表面的なものではない、有益な知識や意見が交流
ができる場であるのに、たいへんもったいなく感じる。何が得られるかがわからないので参加しないとしたら、
何をしたいのか提示してもらえないものかと考える。

21. 教育条件整備

- ・レポートを丁寧に扱っていただけ
- ・少ない人数で、もったいなく思う内容でした。
- ・他地区のことや他校のことを知ることができて参考になりました。
- ・途中、ゆっくり休憩を入れていただき良かったです。
- ・教育費に関する話題が多く、コロナによる影響やそれに関わる時事的な問題も討議出来たが、子どもたちの修学
保障に関わる直接的なレポートが少なく、今学校で過ごす子どもたちの姿や思いが捉えられる話があれば良い
なと思いました。
- ・外部の方が共同研究者として付いていただけること、ありがたく、この分科会の強みだと思いました。
- ・レポート3つとも、これから先、直面する事が提示されていて大変参考になりました。分科会の進行、雰囲気もよ
く、話しやすかったです。分科会運営ありがとうございました。

22. 学校給食と食教育

- ・コロナ禍や GIGA スクール構想で教育を取り巻く環境が著しく変化している中、実践や情報を共有することがで
きて励みになります。目の前の子どもたちのため、私たち自身が積極的に学びを深めていきたいと思ひます。
- ・ICT で子どもを育てられるのかどうかというテーマを掲げて行われた分科会。
- ・学校給食という五感を通して子どもたちを育てていくという基本に強い思いを寄せながら、芯をブレないように
食育を行っていききたいと思ひました。
- ・ICT をあくまでも有効な手段として食教育の可能性を求めていくこと、視力の低下、運動不足などの弊害も気をつ
けながら考えて、対話を大事にしてや一人で抱え込まないようにすることを忘れずにしていきたいです。
- ・発表者として久しぶりに参加しました。自分自身、ICT を活用した食育にはまだまだ追いついていませんが、デジ
タラカメラで小間切れの動画をとって PP に落として動画風で映像を流している事例や、農家へ出向いて教室とリモ
ートで児童とやりとりする事例など、仲間の活動にたくさんの刺激を受けました。タブレットで映像を撮るにはどう
したらいいかわからない状態ですが、練習のつもりでタブレットに触れてみようと思ひます。
- ・本校にはいないのですが、マスクなしに食事を食べることができない子供がいる、という話もあり驚きました。一
口食べたらずぐマスク、次を口に入れたらまたマスク、マスクをとることができない子どもたち……今後マスク
が必須でなくなったらその子たちはどうなるのか心配です。
- ・少人数でしたが、今の課題に沿った実践のレポートや討議がおこなわれたので、勉強になりました。もっと多くの
仲間に参加してもらいたいとも感じました。共同研究者の先生からもっとお話を聞きたかったような気もしま
す。

23. 環境・公害と教育

- ・いつも参加している分科会とは異なる文分科会でしたが、充実した内容で魅力的でした。
- ・レポートに対する様々な質問、ありがとうございました。また、共同研究者の方々の報告、講義も勉強になりました。

24. 現代文化・図書館教育

- ・昨年度共同研究者の先生にもっとお聞きしたいことがたくさんあったので、今年はたくさんお話が聞けて良か
ったです。昨年度見せて頂いたスパゲティの木の番組のお話なども多くの先生方にも聞いていただきたいと思ひ
ます。
- ・各校の課題を基に情報交換ができて図書館が探究学習に関わっていく上でのヒントをたくさんもらえたと思ひ
ます。
- ・急速に進む ICT 教育でネットリテラシー教育が置きざりとなっていること、ネット犯罪の低年齢化が進む現状を
お話いただきました。参加者が少なくもったいなくらい教員が知っておかなければならない内容だったと思ひ
ます。
- ・参加者が 14 名と少なめでしたが、むしろざっくばらんに討議を進めることができたのではないかと思ひます。
(入ってくる情報が多すぎて、今ちょっと頭が熱い)

25. 不登校

- ・充実した内容でした。
- ・いろいろな立場の具体的なお話が聞けて良かったです。
- ・不登校、ひきこもりの子どもたちは、学校が変わるように警鐘を鳴らしているように思えてなりません。学校って文化の伝承と人格の完成を忘れていませんか？
- ・学校現場の報告からはコロナ下における不登校の状況が見えてきた。民間団体の取り組みは大変詳しく子ども達の寄りそった愛情も持った取り組みが何え大変参考になった。学校の抱える問題については今後突っ込んだやり取りが教員、民間、保護者の間でなされる必要があると感じた。
- ・何年か前に参加して少しトラウマになっていました。「学校が悪い、先生が悪い。」ではなく、共に前に進めるような話し合いができるといいと思ってリトライしました。結論は「学校なくなった方がいいとしか思えない。」と30年前の恩師に締めくくられてしまい(苦笑)、まだまだ悟りの道のりは遠いと痛感した、興味深い話し合いでした。「学校っていいね」と言われるように、努めていきたいと思います。
- ・不登校は特別ではない！と捉えることが大事だと思いました。学校での過密なスケジュールや同調圧力が子どもだけでなく、学校の先生も追い込まれていると感じました。
- ・学校外の公設支援スペース「はぐるっぼ」の活動を聞いて、この活動そのものが社会全体に広まればいいなと思いました。子どもの力を信じて一步を踏み出すまで待つこと。大変だけれどもそんな意識を持てるようにしたいと思います。
- ・学校の環境を変えていくことも大事ですが、子どもだけでなく、大人も含めた人権・命が尊重される社会を世界中のみんなが考えていかなければならないと感じました。”
- ・いろいろな立場の方からのお話を聞くことができ、とても勉強になりました。今はまだ考えもまとまらないですが、これからも考え続けていきたいと思います。子ども気持ちを真ん中に、連携し合っていけたらと思います。
- ・子どもがいる中での参加で失礼しました。ご迷惑をおかけしてしまいました。参加させていただき、本当にありがとうございました。

27. ジェンダー平等の教育を考える

- ・寺町先生の分かりやすい、また詳しいジェンダーについてのお話しが勉強になりました。
- ・講師の先生が良かったです。ジェンダーについて勉強しているつもりでも、その視点はなかったなと気が付かされるものでした。
- ・寺町先生のお話が分かりやすく、示唆に富んでいてとても良かったです。大日方先生の実践に対するコメントも説得力がありました。同じ問題に関心のある方がこれだけいる、というのも励みになりました。
- ・前回の実践レポートから更に継続、異動先での実践、新たな試み、それらに対する反応など色々お話しくださり、大日方先生の発表は勉強になりました。考えさせられることが多かった。
- ・学校現場は、ジェンダーや人権にかかわる問題にもっと敏感になるべきで、教員はもっと学ぶべきだと思う。自分にもバイアスがかかっていることは当然のことで、そこに甘んじていてはだめだと思う。参加者に男性がいないことがすでに自分のことではないと思っている人が多いことを表している。

資料③

2022年度県教研分科会総括

- ①報告・討議の内容の概略。問題になったこと、明らかになったこと
- ②来年度への課題・要望等
- ③分科会の討議や交流の様子

1. 国語教育

- ①・現行学習指導要領の課題点と、現場教員の悩み
 - ・ICT活用の利点と問題点
 - ・学習評価のあり方(特にルーブリック評価について)
- ②・来年度はぜひ対面で実施したいという声が多く上がりました。
 - ・分科会役員会の時点では、レポート数が少なく、共同研究者の方にも実践発表をしていただく予定でしたが、伊那のレポートが後から追加され、当日は充実した実践発表会になった。ただ、最終的に集まったレポートの本数や密度を考えると、2日間実施でじっくり討議したかった、という声が上がった。
- ③ 本年度も、各方面から意欲的な実践が集まった。分科会では、オンライン実施の利点を生かし、チャットでの意見交流も実施した。指導要領の課題点や、現場教員の悩みも明らかになった。ICTの利活用、学習評価の問題を柱に、非常に熱い討議が交わされた。

2. 外国語教育

3. 社会科教育

- ①「ウクライナ侵攻」は、社会科の平和学習として多くのことを学ぶことのできる教材である「プーチン大統領の民主主義への抵抗が背景にある」「独裁者は侵略者になる」「民主主義の大切さ」こうした事を学ぶ契機とした。
 - ・対話を通して考える学習の中で何を学ぶのか。SNS での炎上や分断の広がる世界の中で、互いの価値観の違いを乗り越えて、協力し合える関係をどのように構築していくのか、こうした事を学んでいくことが非常に重要である。
 - ・資源や環境は、当たり前のもものではなくなっている。人間が生きていく上で大事なものは何か、子どもとともに考えていくことが大切である。
 - ・学習評価は学ぶ意欲につながるものでなければならない。評価のために翻弄されるのではなく、授業の指導が中心となれることが理想である。
 - ・明治の時代に、個人が国家に取り込まれていく中で徴兵制反対一揆などはなくなっていった。国家を相対化し、個人を大切に意識を育てていくことが大事である。
- ② 課題別と教科別の一方にしか参加できなかったのが、教科別と課題別の分科会は別日程でお願いしたい。
 - ・より多くの先生方が参加できるように、困っていることや先生方の要望に応える内容を企画していきたい。
 - ・社会科教育において、女性の先生方の参加やレポート発表などがもっと増えるような取り組みが必要であると考えている。
- ③ ウクライナ侵攻の出来事を通して、戦争や平和の問題を社会科でどのように学ぶのかということが主要なテーマの1つとなった。国際政治において対立が先鋭化している状況の中で、武力による解決ではなく対話を通じて互いが理解し合うこと、こうした手腕を身に付けるために、児童生徒が問題意識を持ち、そこから主体的に学んでいくことができる実践を目指していくことが、社会科教育において本当に大事な課題であることが確認された。また、戦争だけでなく、環境破壊によって生存の危機に直面している現状において、生きること、命の大切さについて、今まで以上に教育の場でしっかりと向き合っただけで学習していくことが重要である。

学習評価は生徒の学ぶ意欲につながるものとなることが大事であるが、観点別評価によって示される成績は、生徒の学習意欲を削いでしまう結果となる場合もあるのではないかと。また、評価に労力が割かれ、指導に十分注力できない状況を生み出している。限られた授業時間数の中で、基本的な知識を学ぶ時間が確保できない、「主体的に学ぶ力」の評価をどのように判断するのか、特に高校の現場では生徒の進路の問題と関わって困惑していることが報告された。

4. 算数・数学

- ① 子どもの実態から出発して、授業の進め方や教材の配列、指導方法などを決めていくことの重要性を共有できた。
 - ・対話的で深い学びとはどのような学習のことなのか、一斉授業で意欲を失っている生徒にどのように意欲を持たせるのか。などの現代的な課題を深めることができた。
- ② 高校の先生方の参加を促したい。

高校側からすると小・中学校の実践を知ることは役に立つ。生徒の学びを連続的にとらえることが大切なので、できるだけ今日の内容を知らせていきたい。
- ③ 分科会の課題提起で、基本となることを豊かに深く学ぼうと提案されました。今回のレポートはまさに子どもの実態から教材や指導方法を考えて実践した内容でした。豊かな学びにするにはどうすればよいかという観点での共同研究者の指摘も大変的確でした。今、教科書は、基本→活用 の流れで行われているが、興味の持てる場面→基本の学習への誘い→定着→さらなる興味関心へのサイクルを確立するような授業が提案できるとよいと思いました。

5. 理科教育

① 討議の柱1: 魅力ある授業の探求

- 「菌根菌・糸状菌・窒素固定菌と自然 or 有機農法」大場健彦(飯田風越高・下伊那)
- 「スマホカメラによる岩石薄片の観察」山本淳一(諏訪清陵高・諏訪)
- 「寒天地層を用いた模擬ボーリング調査から読み取る地層の様子」矢崎瞭汰(豊丘中・下伊那)
- 「ニラの花の減数分裂」綿貫京子(中野立志館高・高水須坂)

工夫された教材研究による授業実践について交流を行った。

② 討議の柱2: 新学習指導要領完全実施にともなう小中高を見通した教材編成の探求

- 「電流分野 まとめのクイズ 中2 電流」吉池広明(真田中・上小)
- 「書き込み式授業プリントとタブレットを併用した授業実践」小原秀樹(長野西高中条校・長水)
- 「事前に設えることで、思考力、判断力、表現力の向上を育む理科の授業のあり方」
田中裕也(長谷中・上伊那)

③ とにかく体験してみよう仮説実験授業(生物と種)」花岡秀樹(岩村田高・佐久)

タブレットを用いた授業実践の交流を行った。グループ討議が苦手、人前での発表が苦手な生徒の意見提示の場を創設できるメリットについて研究会として情報共有がなされた。政策とコロナ禍で広がりを見せているが、実

実践事例が少ないので、今後の大きな研究課題である。

- ②支部研究活動の活性化が求められる。小学校のレポートが今回は無かった。来年こそは、会場開催で実施したい。
- ③参加者が24名で、中学校で8本のレポート発表に基づく研究討議がなされました。工夫された教材による授業実践紹介、タブレットを用いた授業実践の交流を行いました。タブレットの授業実践では、グループ討議が苦手、人前での発表が苦手な生徒の意見提示の場を創設できるメリットについて情報共有がなされました。タブレットは政策とコロナ禍で広がりを見せていますが、実践事例が少ないので、今後の大きな研究課題であると思われます。

6. 図工・美術教育(休会)

7. 音楽教育

8. 書写・書道教育(休会)

9. 技術・職業教育

- ①高校側から「高校専門教育の再編」と「観点別学習評価」導入の課題について課題が提起された。総合技術高校については、強制されている専門性の確保と学科間連携という相矛盾する条件を逆手にとって学科の枠を超えて、持続可能な社会をどう実現して行ったらよいかを追究できる高校としての総合技術高校における専門教育の可能性について討議を行い、活発な意見交流ができた。
中学校の技術・家庭科(技術分野)の討議では、授業時間数は削減されているのに、扱わなければならない内容(いわゆる4つの分野)は変わらず、扱う単元の精選や題材の選定に苦慮している。加えて3年次には「4つの分野」を活用し問題を解決する力もつけなければならない。中学校の技術教育は「かつての『ものづくり』の技術ではない」という考え方も広まる中で、『ものづくり』の時間を確保し、生徒に『ものづくり』の楽しさを体験させたという切実な思いが語られた。
共同研究者のお二方からは、「2022年の円安・インフレと技術・職業教育の意義」、「技術・職業教育の担う役割」をテーマに、それぞれ課題提起をしていただいた。
- ②今年度は県教組からの役員選出がなかったため、是非、来年度は選出をお願いします。
- ③共同研究者2名と高校・中学からそれぞれ1名の計4名という極少数の分科会となったが、分科会役員からの課題提起に引き続き、共同研究者のお二方からは、「2022年の円安・インフレと技術・職業教育の意義」、「技術・職業教育の担う役割」をテーマに、それぞれ丁寧に課題提起をしていただいた。途中、10分間の休憩を挟んで約3時間、じっくりと意見交流ができ充実した内容の分科会となった。
何より、参加者が少なかったことが残念であった。

10. 家庭科

- ①高校の指導要領に新たに追加された金融教育について、また、観点別評価について特に話題になった。様々な場面で金融教育の研修が行われているが、そもそも家庭科教育における金融教育はどこまで必要なのだろうか。日々の暮らしが精一杯な家庭もある中で投資の話はどこまで響くのだろうか。観点別評価は本当に生徒のためになるのだろうか。観点別評価をするための授業となり本末転倒になるのではないだろうか。共同研究者の方の話聞きながらそう思った。
再編問題についても話題になった。これからの家庭科教員のあるべき姿についても語られた。
- ②オンラインで、参加しやすい面もあったと思う。
- ③家庭科教育では、おもに、高校家庭科で学ぶことになった金融教育や、高校での観点別評価についてのレポートが出されました。また、コロナ禍における工夫や地域との連携、高校再編、ICT活用についてのレポートもありました。普段1~2人で勤務している家庭科教員ですが、貴重な情報交換の場となりました。ご協力いただいた先生方ありがとうございました。

11. 保健体育教育

- ①部活の地域移行については、指導者不足とスポーツクラブとのあり方などに課題がある。
 - ・教材(サッカーやバスケットなど)を通して何を教えたいのかをはっきりとさせて学習内容を決め出したい。
 - ・ICT機器の活用は学習方法であり、その上の段階にある教科内容(学習内容)に迫りたい。体育学習はスイミング教室や剣道教室などでは得られない学習内容としたい。
- ②学習指導要領を乗り越える実践の蓄積
 - ・一部役員、共同研究者の刷新と引き継ぎ
 - ・参加者がさらに増える取り組み
- ③授業実践や部活などに困難がある中でしっかりとしたレポートが多く、体育教師らが工夫、奮闘している姿に感動しました。「みんながわかって、できる」を子どもたちが見つけていく授業が増えていくと嬉しいです。参加の皆さん、お疲れ様でした。

12. 学校保健

①3本のレポートから討議の柱を次の3つにした。

- (1)保健指導にICTを取り入れることの良い面、また端末が子どもたちに与える影響
- (2)子どもたちが、自分に様々な気持ちを肯定的に受け止められるための養護教諭の役割
- (3)子どもたち、主体的に身体に向き合う性教育とは。
5人程度のグループセッションで討議し合った。

②緒善にコロナウイルス感染が急増した事もあり、リモート開催はそのような心配なく、参加できとてもよかった。来年度もこのような開催方法でよい。討議の柱が参加者全員に通知してなく、討議の深まりが難しいグループもあった。

③コロナ禍の中でも小～高の養護教諭が、保健指導の取り組みやからだの学習を続ける姿に参加者は私もやってみたい、参考にして取り組んでみたい等の感想をもった。また、小～高の保健室の子どもたちの様子を語りあい、連携やからだの学習の積み重ねの大切さを感じる会であった。

13. 総合学習・生活科

①それぞれのレポートをもとに、学習場面での授業者の立ち位置について、どのように出たらいいか、子どもの考えをどのように見取ればよいか、題材提示やふりかえりの場面について考えました。

②レポートの内容も含めて討議の柱は具体的な内容で提示すると「急に話を振られて困ってしまう」ということがなくなっているのかなと思いました。

③少人数でしたが、それぞれの先生方の実践から新たに見えてきた課題について互いに共感しながら、自身の経験をもとに考えることができました。簡単にこたえを見出したり、解決策を見つけたりすることができない問題だからこそ、聞き合い、知恵を巡らせて、よりよいものをみんなで探すことができたと思います。

14. 学校づくり・教育課程 / 26. 高校改革・高校入試(合同分科会)

①課題提起「高校再編と研究所の取り組み」第1期・第2期再編の特徴とそれに対する取り組み

レポ1「総合技術高校 再編・整備計画の現状について」経過・概要・高教組の取り組み

・各高校が特色づくりを競い、予算がないまま数あわせが進められる

課題提起「国が進める教育政策」改定教基法以降の教育政策と文科の動き・教育再生実行会議提言

レポ2「全国と長野県の高校入試」それぞれの経過・概要・問題点

レポ3「中学校の現場から見た新しい高校入試」問題点ばかりが目立つ

・中学校 vs 高校の構図にしない。高校選抜の強化にもしない。という視点

②・保護者や市民との交流の場を設けたい。そのためにも対面またはハイブリッドが望ましい現場の声がもっとほしい。

・レポート数が著しく少ないことの懸念

・長野県の高校改革運動の論点整理が必要

・免許更新制廃止による新たな研修の中に、県教研の分科会が位置づけられないものか？

③当分科会は「教育課程・学校づくり」と「高校改革・高校入試(特設分科会)」との共同・合同開催分科会として行われました。参加者は最大時で15人でしたが、一般市民や保護者の参加は残念ながらありませんでした。

前半では「高校再編」をテーマにして、第1期・第2期高校再編の経過と信州の教育と自治研究所や高教組の活動を振り返りました。

後半では「新たな高校入試」を柱にして、全国の動向に照らしながら、今後考えられる現場や受験生たちの負担について話し合いました。

15. 生活指導(自立と自治の指導)

①・「集団づくりにおける呼びかけと応答の関係をどのようにつくるか。」を柱として、5本のレポートを討議した。子どもたちの抱えているものを引き出して共有することや子どもたちのやりたいことを引き出して形にすることが必要であることをレポートから学んだ。

②・レポートは最終的に5本集まったが、レポートの呼びかけが難しい。

・役員数が少なく、運営面でも厳しい状態である。

③・集団づくりにおける呼びかけと応答の関係をどのようにつくるか。それには、子どもたちの抱えているものを引き出して共有することや子どもたちのやりたいことを引き出して形にすることが必要であり、それをどのように創るかをレポートから学び合った。

16. 特別支援教育と障害児の教育

①・箕輪進修高校の「通級による指導」は、5年間の蓄積から運営方法・指導内容などが確立されてきている。そのことで校内の支援力がアップし、通級を受けていない他の生徒へも意識の高さに繋がっている。該当生徒にとっては大変有効であるが、実施している3校とともに、担当する教員は本来の教科授業、校内の重要な分掌(役割)を持ちながら、個々の支援計画に合わせた「通級による指導」を行うことの負担が大きいことが報告されている。

・義務教育段階の小中学校「通級」と高校での「通級」との連携のあり方には依然、課題が残っている。高校入学後、問題が起きてから支援の手が入ることもあり、事前の把握によって入学後から適切な支援を行うことの重要性が語られた。本分科会にも小中学校「通級」の担当者の参加を呼びかけ、共に考えていけたらと思う。

高校における「通級による指導」については、定時制課程だけではなく、必要のある全日制高校での今後の広がりが見えてこないことも課題である。

- ・小学校特別支援学級において、自立活動や教科学習として、有名な動物の絵を題材に、思いを伝えたり友だちの思いを聞いたりして、表現力や聞く力を育てたいとした実践が報告された。教師の教材に対する本気度が子どもたちにも伝わり、素直な考えを自由に語ろうとする授業になった。発達段階5～6歳は、つじつまを合わせた話ができるようになる段階で、正解のない、感じたままの想い(根拠のない考え)を語ることができ、それを周りの友だちがきちんと聞いてもらえる、そういう段階がとても大切である。このような段階を踏むことで、根拠のある発言ができるようになっていくという意味で、とても良い授業だ。
 - ・中学校では、生活単元学習が珍しいと思われるほど少なくなっている。「パン作り」の活動を通して、自主性・自発性を育てようとする取り組みの実践の報告。中学校では特別支援学級生徒の教育的ニーズや担任の持ち時間数などの関係から、生単に取り組める年とそうではない年がある。そのような意味でも貴重な実践報告だった。
 - ・須坂支援学校は、「地域の子どもは地域で」との考えから須坂市が独自に設置した学校である。新しく学校生活を始めた1年生Tくんが、なかなか教室に入れず、日課に沿った活動ができなかったが、学習の場や日課の大改革により、日常生活の指導を当面あきらめてT君の好きな活動を保障するようにしたり、プレイルームで遊ぶことが大好きなTくんを皆を合わせて1日の始まりをプレイルームからスタートさせたりしてきた。そのことにより、同じ低学年クラスの仲間たちが仲良くなったり、Tくんもクラスの一員と感覚的に感じられ、みんなが楽しく嬉しい時間をみんなで共有できる時間になっていったという実践。「子どもを学校に合わせるのではなく、「学校を子どもに合わせる」という理念を大切にしたい思いが伝わってきた実践報告だった。
- ②・通級指導教室を利用している小中学校のレポート発表を呼びかけ、通常学級に籍を置く児童生徒の支援のあり方を考えていけたら良い。また、高校の「通級」「特別支援教育」との連携のあり方についても、引き続き検討していきたい。
- ・文科省の生活単元学習に関わる方針が変わってきている中で、その在り方については今後も議論していく必要がある。
 - ・障害児学校での実践発表は、小中学校の先生方が聞いても参考になる内容が多い。1日開催で参加しやすく、様々な立場のレポート発表が聞ける大変有意義な時間であった。
 - ・障害児学校高等部卒業後の学びの場(専攻科や福祉型専攻科など)の実践発表があると良い。
 - ・課題提起に盛り込まれた内容や課題を、現場でどのように問題意識を持って実践していくかが問われている。今後のレポートに期待したい。

- ③ 第16分科会「特別支援教育と障害児の教育」では、高等学校の「通級による指導」、小学校および中学校特別支援学級、支援学校小学部の4本のレポート発表があり、大変有意義な討論がされました。

高校の「通級による指導」は、5年間の蓄積から運営方法・指導内容などが確立されてきていて、そのことで校内の支援力がアップし、通級を受けていない他の生徒へも意識の高さに繋がっているとの話でした。義務教育段階の小中学校「通級」と高校での「通級」との連携のあり方には、依然、課題が残っていて、本分科会にも小中学校「通級」の担当者の参加を呼びかけ、共に考えていけたらと思います。今後、すべての高校において「通級による指導」から特別支援教育に対する理解が深まることが期待されます。

小学校特別支援学級において、自立活動や教科学習として、有名な動物の絵を題材に、思いを伝えたり友だちの思いを聞いたりして、表現力や聞く力を育てたいとした実践が報告されました。教師の教材に対する本気度が子どもたちにも伝わり、素直な考えを自由に語ろうとする授業になったこと、感じたままの想い(根拠のない考え)を語ることができ、それを周りの友だちがきちんと聞いてもらえる、そういう段階がとても大切であるといった意見が出されました。

中学校では、生活単元学習が珍しいと思われるほど少なくなっている中、「パン作り」の活動を通して、自主性・自発性を育てようとする取り組みの実践の報告でした。中学校では特別支援学級生徒の教育的ニーズや担任の持ち時間数などの関係から、生単に取り組める年とそうではない年があり、そのような意味でも貴重な実践報告でした。

支援学校では、新しく学校生活を始めた1年生Tくんが、なかなか教室に入れず、日課に沿った活動ができなかったが、学習の場や日課の大改革により、日常生活の指導を当面あきらめてT君の好きな活動を保障するようにしたり、遊ぶことが大好きなTくんを皆を合わせて1日の始まりをプレイルームからスタートさせたりしてきました。そのことにより、同じクラスの仲間たちが仲良くなったり、Tくんもクラスの一員と感覚的に感じられ、楽しく嬉しい時間をみんなで共有できる時間になっていったという実践でした。「子どもを学校に合わせるのではなく、「学校を子どもに合わせる」という理念を大切にしたい思いが伝わってきました。

どのレポートも大変素晴らしい実践で、今後も、学校現場で課題提起に盛り込まれた事柄に問題意識を持って取り組み、長野県の教育をさらに発展させていく実践を期待したいと思います。

17. 幼年期・低学年の教育と保育

- ①・保育園より あたりまえの生活を日々継続していくことが今難しくなっている。

安心感の中で人が好きになりコミュニケーション力に繋がっていく。(特に1歳まで大事)

- ・支援が必要な子が増えている(きりかえができない。「いやだ」が言えない。思いを伝えられないで暴力)
- ・遊びの体験の貧しさ ゆとりのなさ(時間的にも・・・習い事)(できないの評価のまなざし)
- ・保育士配置基準の改善、30人学級の実現こそ。(話を聞いてもらえる、寄り添ってもらえる安心感)
- ・スマホ・タブレットの普及、での子どもたちへの影響

- ・小学校低学年でのタブレットの活用について
- ② 課題提起を保育園関係、学童関係の方に A4 三分の二くらいずつの中で、文章を書いていただくようにする。
 - ⇒参加者も広がるか。
 - ・それぞれの分野での実践や課題を話していただくのに、もう少し時間があるとよい。共同研究者のまとめの時間もしっかり確保したい。⇒100分の分科会時間を120分にしたい。
 - 分科会の始まりに、討議Ⅱの時間に他の分科会参加予定があるかどうかの確認をする。分科会案内に記入して知らせておく。
 - ・討議したことのまとめも、簡単にしておきたい。
 - 課題提起(簡単にやる)自己紹介15分→レポート討議80分→休憩5分(この時間に分科会担当で、討議のまとめ案を作成)→まとめを行う休憩合わせて10分→共同研究者のまとめ15分
 - 共同研究者の方には、適宜討議の中にも加わって話いただく。(今年度からの一応のめやす案)
- ③ 保育園の先生からのお話の中では、今、朝起きて、食べて、遊んで、寝る、会話する、のような当たり前の生活を継続することの難しさが言われた。学童の先生からは子どもたちの時間的なゆとりやのなさが、様々な遊びの体験不足に繋がっている点が指摘された。周りとうまく人間関係を結べない子どもたちが増えているが、大人との信頼関係を作る幼年期・低学年の大切さが改めて様々な視点から討議された。小学校ではそこにタブレットが入ってきて、どのように活用することがよいのか見当していく必要性が出された。

18. 青年期・定時制・通信制の教育

- ① 課題提起および現場からの補足
 - コロナ禍と児童生徒の現状(不登校・自殺の増加)、広域通信制の学校数・生徒数の激増、高校再編問題、定時制教頭人事(毎年異動し支障)、令和の日本型学校教育(従来の全・定・通という枠組みの見直しまで言及)。
 - ・ロシア国家統一試験数学の考察
 - ロシアの標記試験から、生徒の知識の質を高め、主体性を引き出す実践とは？
 - ・トトロと遊ぼう 子どもの願いや思いを大切にしたい授業づくり
 - 子どもの願いや思いを大切にしたい授業実践。快の体験の重要性。
 - ・平成30年～令和2年度の本曾地区の中学校における特別支援学級等の卒業生の進学先地道な調査活動の報告。特別に支援が必要な生徒の数が増加傾向にある。進学先の支援体制。
- ② 参加人数が5名(役員4(高校2、養護学校1、高教組OB1)、共同研究者1)のみであった。定通制の現場からの参加が1名というのは、寂しい。如何に参加者を増やすか。
 - ・昨年、レポートは1本だけだったが、本年は3本に増えた。
- ③ 2度目のオンライン分科会でした。途中、ホスト(私)のPCが不調になり代理発表するレポートの画面共有ができなくなりました。事前にレポートや資料を参加予定者の方々がダウンロードし、紙ベース化して頂いていたので何とか発表を終えることができました。いやはや・・・。

19. 子ども・青年と進路

- ① 長野東高校 村田直樹先生「就職実態調査報告 高校生の進路について」より
 - 長野県高等学校教育文化会議進路指導会が行ってきた就職実態調査報告により、就職差別が減っていることがわかった。完全になくなったとは言えない状況。今後も声を挙げていく。
 - ・市立長野高校 工藤雅史先生「2校の中高一貫校に勤務しての所感」より
 - 中高一貫校同士でも、県立と市立で違いがある。それぞれの持ち味をいかした教育をしていくことが大事。
 - ・富山県立富山いずみ高等学校 加藤栄一先生より
 - 入試制度や教員を取り巻く状況、民間企業との関わり、コロナ等から、学校での指導が健全に行われない現状。子どもの姿から、粘り強く指導できるような環境づくりをすべき。
- ② 特になし
- ③ 2本のレポートと共同研究者の提案を受けて、小学校・中学校・高校のそれぞれの立場から意見交換が活発に行われた。その中で、子どもたちの姿を中心に据えて教育活動を行うべきだということは何の立場でも変わらないということが共通認識となった。「子どもは種子」という視点をもち、すぐに芽は出なくとも信念をもって育てていきたい。

20. 平和・人権と国際連帯の教育

21. 教育条件整備

- ① 提出されたレポートは3本ありました
 - 1 PTA 統合について考える
 - PTA 統合に伴う残余金の取り扱いや活動のあり方についてのレポートが提出された。PTA 会計は完全なる保護者負担であり、コロナ禍という事情を勘案しても多くの残余金を残していることに対する問題点が主たる論点となった。話し合いの中で、地域とのつながりや学校統合も視野に入れた PTA 会計のあり方や、そもそもの支出項目について要検討であることが確認された。活動内容や支出のあり方について課題が残った。
 - 2 2022年度学校集金アンケートに関する報告

長水支部事務職員部では毎年学校集金に関するアンケートを取っている。学校事務職員の視点から見ると変わらない部分もあったが、変化した部分もあった。その点についてどのように保護者負担軽減へとつなげるのかが大きな課題として挙げられた。教職員間の確認事項として公費化できる項目の明示と、保護者負担への意識をどう校内に広げていくかは毎年の課題である。今後もよい取り組みがあれば交流し、義務教育無償の理念が広がることを期待したい。

3 学校集金の口座振替運用に伴う費用について

学校集金の口座振替を依頼している金融機関よりシステム使用料を求められることが発生した。当初システム使用料は無料だったものの、経営状況によるものなのか支店より使用料を請求されることになった。保護者集金を現金で行なうことは危険であり、保護者口座より引き落とす学校も増えている。しかし、保護者にシステム使用料を転嫁することもできない。予算を許さない状況ではあるが、最善の方法を模索している。これは1支店の範囲に収まらず、全県に広がる可能性がある。

- ② オンライン開催で全県より参加者が見られた。今後開催方法がどうなるか分からないが、多くの方が参加出来る分科会として運営を継続していきたい。
- ③ 教育条件整備の分科会では PTA 会費や学校集金等の話題が扱われました。参加者からは保護者負担の軽減と支出内容について発言があり、義務教育で必要とされるお金について改めて考え直す機会となりました。学校集金については課題が多くあることが確認されたとともに、周知や運動によって改善できる余地があることを感じられる分科会でした。

22. 学校給食と食教育

- ① ICT を活用した食育をテーマに話し合いを行い、特に動画を利用した食育について掘り下げた。給食時間中に映像を見ながら食べることの是非について短時間で時々の機会であり、また内容も食に関する学びであるので良いのではないかと結論に至った。また、動画作成について情報を提供し合った。コロナ禍での黙食により、食に関する指導がしにくい現状があるという問題については、長期と言っても数年のできごとであり、現在できる指導を行うのがよいという結論が出た。
- ② 来年度も1日開催で十分だと思います。
- ③ コロナ禍でのICTを活用した実践レポートをもとにICTの活用やコロナ禍での食に関する指導の方法について話し合いました。3回のブレイクアウトルームの中で、活発に意見を出し合いそれぞれの問題について協議を深め、解決策や役立つ知識を得ました。

23. 環境・公害と教育

- ① 近年の気候変動を象徴するように持続可能な社会づくりが喫緊の課題となる状況である中で、分科会では、環境教育としてその課題に対してどの様に対応していくのかが中心的な討議の内容となった。また、コロナ禍となり3年目を迎える状況で環境教育を広く捉え健康学習としても研究会で取り扱う事が重要になってくることが明らかになった。
- ② 共同研究者、役員を含め6名の参加者であり、参加者を増やしていく事が課題であるが、コロナ禍の影響もあり提出されたレポートも少なく何とかこの状況を変えなければと思っている。来年は、状況が許せば対面式で実施される事を望む。
- ③ 共同研究者・役員を含め6名の参加であった。レポートは高校側から「環境負荷の少ない暮らし」についての実践報告や共同研究者からは、中国の環境教育やラオスのコロナによる学校教育の影響についての報告があった。最近の海外における環境や学校教育などの諸問題について討議する時間も充実した分科会となった。

24. 現代文化・図書館教育

- ① 図書館でできるメディアリテラシー
著作権やネット情報の問題点など、1人1台タブレットが導入された今学ぶべきこと、図書館でできる支援について情報交換をした。
- ② 研究会の持ち方については、今後青少年文化と話し合う必要があると思います。
- ③ 著作権やリテラシーの問題について南澤先生から学び、図書館でできる支援について参加者で情報交換しました。ピンポイントのネット情報だけではなく、結論に至る過程に当たりながら自らの考えを導き出すことの大切さを学びました。

25. 不登校

- ① 討議Ⅰ ①課題提起(不登校の現状や現場のとりくみ、分科会の紹介等)
 - ②レポート「不登校の原因をどうとらえ、どのように対応していったらよいか」
不登校児とのかかわりを振り返り、どのような対応ができたならよいか考えを発表。
 - ③レポート「教育相談室の現状から」
教育相談の事例から、不登校の原因の考察や教育相談室の関わりを発表。
- 討議Ⅱ ④「はぐルッポ」の活動について
「はぐルッポ」の誕生や、活動内容の紹介と課題についての発表
- 討議Ⅲ ⑤まとめ
不登校問題は、社会全体で考えていかなくてはならない課題。

- ② 2年続けて、笠原がレポートを発表したが、学校現場からの参加者のレポートがあると司会を進めやすい。
- ③ 不登校分科会では、学校現場での不登校児童との関わりや、教育相談室の相談事例の報告がありました。松本市の「はぐルッポ」の設立経緯や願い、活動内容の紹介や課題をお聞きすると、参加者からはたくさんの意見・質問、感想が出されました。討論を通して、不登校問題は学校や保護者、地域の連携はもちろん、社会全体で考えていかなくてはならない問題であると参加者一同、再確認することができました。

27. ジェンダー平等の教育

① 1. 講演

演題 『〈教師の人生〉と向き合うジェンダー教育実践』

講師 寺町晋哉先生(宮崎公立大学)

ジェンダー教育実践を一步ずつ進めるために

・ 教職員(子どもたちも)はジェンダー化された人生を歩んでいることを前提にする。

人の考え方や価値観は自分の人生経験に制限されており、一定の「限界」がある。

自身の価値観や人生を批判的に検討することは負担をもたらすかもしれないため、まずは自分の考え方や価値観に「限界」があることを認め、自分の人生を振り返ってみる。

・ 子どもたちを中心にすえる。

「目の前にいる子どもたちに何ができるか」という共通の目的をもつことで、ジェンダーの課題に対する「目線」も揃いやすくなる。

・ 子どもたちとの「やりとり」から互いのジェンダー・バイアスを振り返り・共有する。

「そういえば重いもの運ぶ時に男子を呼んでいた」などの日常的なジェンダーを互いに共有してみる。「それ、ジェンダー・バイアスですよ」と指摘するのではなく、「男女関係なく呼びかける声かけはどんな方法があるか？」などを話し合う。

2. 実践報告

報告者 大日方光先生(野沢南高校)

No.1高校での性教育の試みと壁

生徒の妊娠、中絶、交際の仕方、偏った情報などの問題に対してどう向き合ったらよいか悩んでいた。そんなとき、最近の性教育実践を知ることとなった。そこで、優れた実践を手本にして私も試行錯誤してみた。昨年度まで勤務した小諸商業高校定時制での取り組みを反省し、修正しながら今年度は野沢南高校定時制で行っている。1、3、4年は、それぞれ地理、世界史、日本史の授業中の時事問題学習のなかの一つとして実施。2年は、現代社会の「青年期の課題、憲法分野」の学習として実施。LHRも利用。

No.2生理用品をトイレに設置するまで

2021年度に全国的に広がった、公共施設や学校のトイレに無料の生理用品配置という動きの背景には、女性の貧困→コロナ感染拡大→「女性の貧困」の表面化→「生理の貧困」→女子トイレに無料の生理用品配置という流れがある。女性の貧困の原因は、飲食業やサービス業に女性の非正規雇用者が多かったためと思われる。しかし、この動きには都道府県や市町村によって大きなバラツキが見られるのも実情だ。この問題も含めて、生徒の意見を学校運営に反映させたいというのが今回の取り組みである。その手段として二者協議会づくりをめざした。今回のレポートではおもに生理用品設置について報告する。

- ② ・義務からの役員の方がいなかったため、来年度は参加していただくと良い。

・レポートの数が少ないので、実践報告の蓄積をしていきたい。

- ③本研究会では、宮崎公立大学の寺町晋哉先生に『〈教師の人生〉と向き合うジェンダー教育実践』

をテーマに講演していただいた。「それ、ジェンダー・バイアスですよ」と相手に指摘するのではなく、「目の前にいる子どもたちに何ができるか」という共通の目的をもつことで、建設的な議論をすることができるというお話があった。また、野沢南高校の大日方光先生には、「高校での性教育の試みと壁」と「生理用品をトイレに設置するまで」の2本のレポートに関して報告していただいた。